

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時):工学系研究科修士一年

参加プログラム:全学交換留学 派遣先大学:国立台湾大学

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体
5.民間企業(業界:未定) 6.起業 7.その他()

本報告書は、大学として情報を蓄積し、海外留学・国際交流プログラムの改善に利用するとともに、ウェブサイト等で公開し、留学を希望する本学学生の参考資料として活用します。学内外の広報や、本学の国際化に関する業務のための資料等に活用する場合があるため、個人情報の観点等を十分に鑑み出版物・ホームページ等に掲載可能な内容とし、差し支えない範囲で自由にご記入ください。(原則として筆者の氏名・連絡先等は公開しません。)

●後輩が読むことを考え、今後役に立つような内容とし、重要と思われる部分ではできるだけ詳しく書いてください。

●掲載可能な写真があれば各項目に掲載してください。

●各項目の分量は自由に変更していただいてもかまいません。

【提出締切】留学期間終了後2週間以内 【提出方法】Word ファイルを所属学部・研究科の担当部署へ提出

※この枠内の情報は公開しませんので、以下の点をご記入ください。

氏名: メールアドレス: 電話番号:

来年度の予定: 1.学部~~に~~在学 2.大学院~~に~~在学 3.就職・他大学へ進学などで東大に在籍しない

(留学に関しての東京大学への要望・提案)

※この枠内は公開せず、内部資料として活用しますので、東京大学への要望・提案等があれば記載してください。

派遣先大学の概要

国立台湾大学(1928-、旧台北帝国大学)は、3万人を超える学生を有する台湾で最も大きな大学の一つ。

留学した動機

管理学院と呼ばれる商業系の学部群に所属し専門外の知識を修得すること

中国語のブラッシュアップをすること

長期留学自体を経験すること

留学の時期など

①留学前の本学での修学状況: 西暦[2013]年 学部/~~修士~~/博士[1]年の[夏]学期まで履修

②留学中の学籍: 休学/~~留学~~

③留学期間: 2013年9月 ~ 2014年10月 学部/~~修士~~/博士[1]年時に出発

④留学後の授業履修: 西暦[2014]年 学部/~~修士~~/博士[1]年の[冬]学期から履修開始

⑤就職活動の時期: 西暦[2014]年 学部/~~修士~~/博士[1]年の[11]月頃に(行った/~~行方未定~~)

⑥本学での単位数: 留学前の取得単位[18]単位 留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位[未定]単位
留学後の取得(予定)単位[12]単位

⑦入学・卒業/修了(予定)時期: 西暦[2013]年 [4]月入学 西暦[2016]年 [3]月卒業/~~修了~~

⑧本学入学から卒業/修了までの期間: [2]年[11]ヶ月間

⑨留学時期を決めた理由: 社会に出る前に、長期間海外に留学する経験を積みたかったのが一番の理由です。修士論文との兼ね合いも考慮した上で、修士一年の夏学期で単位をほぼ揃え帰国後の冬学期から研究を開始するという計画であったため、修士一年の冬学期から一年間の留学を決めました。

留学の準備

①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

基本的には東大の国際交流課のスタッフからの連絡に従い入学手続きをすれば問題無いです。台湾大学の場合は独自のオンラインシステムを持っているため、必要な情報や資料を段階的にそのシステムを通じて提出することで入学手続きとなります。向こう側の対応が少し遅かったため、不安になった時期もありましたが問題なく留学できているためこの点に関しては少し辛抱すれば大丈夫です。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

ビザは台北駐日経済文化代表処(東京都港区高輪)に行き、発行しました。当日その場で発行することができ、特に問題はありませんでした。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

健康診断に関しては地元のクリニックで行いました。常備薬はかぜ薬や胃腸薬等を携帯して行きました。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

保険は留学保険を購入しましたが、非常に高価であったため台湾についてから国民保険を申請したほうが良かったと思いますし、そうすることをおすすめします。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

特にありません。教授と面談をし、留学にゴーサインを出してもらったくらいです。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

英語はTOEIC900点台、中国語はHSK6級230点程度取得していたので現地についてからこれといって苦勞することはありませんでした。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

基本的に現地調達で何とかなります。中国語の勉強は出発前にやっておくべきだと思います。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったものに●をつけてください。

Insurance, General Chinese Language Course(1&2), Academic English Writing, Disaster Management and Civil Engineering, Investments, Financial Statement Analysis,

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

Disaster Management and Civil Engineering

先生が土木とコンピュータ科学の2つを専門としていて、分野横断的な講義だったので非常に興味深かったです。すなわちコンピュータ科学の知識をどう災害時に活用するのかという内容でした。

授業のスタイルは3コマのうち2コマを講義、残りを演習というスタイルであったため定着度が高かったように思います。また毎回課題が課されるのも印象的でした。

Financial Statement Analysis

これはGMBAと呼ばれるMBAコースの授業です。多国籍のクラスですべて英語。基本的にはHBSのケースを読みグループごとに発表するという授業スタイルです。生徒参加型の授業だったので非常に面白かったです。またいろいろなバックグラウンドを持つ人と英語で議論するという経験を積むことが出来ました。

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など

前半の学期は18単位と交換留学生にしては多めに履修しました。後半の学期は最終的には6単位と前半の学期に比べて取得単位数は少ないですがその分サークル活動や友人との活動に時間を費やすことが出来ました。

④学習・研究面でのアドバイス

学習面ではできるだけ積極的に授業に参加すること、そして周りの学生と関わりを持つことがその後の留学生生活を充実したものに出来ると思います。基本的に自分の場合は台湾でしか学ぶことのできないことを学ぶために留学したわけではないので、もちろん学習は重要ですがそれに付随する部分での積極性が重要だと思います。

⑤語学面での苦勞・アドバイス等

はじめは少し聞き取りに苦勞しましたが、あえてほぼ台湾人しかいないサークルに参加することで帰国時には会話で苦勞することはほとんどなくなりました。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

台湾大学附属の寮に住んでいました。場所は台湾大学のある公館の近くで通学には便利でした。寮の値段は1月7000元ほど。現地の物価からしたら安くはありませんが、一人部屋ということと立地を考えると高くはないという印象です。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

生活環境は空気が日本に比べて汚いこと・オートバイが多く交通状況が日常的に乱れていること等を除けば快適に過ごすことが出来ました。食事に関しては、大学付近は学生街になっておりいたるところにレストランや露店がありますので店を探すこと自体に苦勞することはないと思います。もちろん衛生管理は日本以上にばらつきがあるのでそこは自分の感覚と友人のアドバイスを聞いてください。お金に関してはキャッシングが使えなかったため基本的にクレジットカードを使っていました。また家庭教師のアルバイトを個別に行ったりして自分で使うお金の一部を捻出していました。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

台湾の治安は非常によく、夜中 1 人で外出しても特に問題はありません。医療機関には幸いお世話になることはなかったのですが、詳しいことはわかりませんが、基本的に日本と同等のサービスを受けられるのではないかと思います。健康面で気をつけたことは食事です。油っぽい食事が多いので、できるだけ野菜中心の生活にできるように心がけました。

④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

・毎月の生活費とその内訳

毎月の生活費は大体 1 万円以内で収まると思います。食事代がほぼすべてを占め、新学期の時期はそれに加え教科書代がかさみます。

・留学に要した費用総額とその内訳

概算で保険 15 万、寮代 32 万、生活費 35 万なのでトータル 100 万以内で生活は可能だと思います。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

JASSO 奨学金を受給。月額 6 万円。国際交流課による紹介。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

テニスサークルに参加しました。

夏休みには現地の日系企業での中期インターン(2 週間)を行いました。

一週間、車で台湾一周の旅に出たりもしました。

派遣先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

留学生がもともと多い大学なので基本的に特に問題になるような自体が発生することはありません。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

図書館が非常に立派であり利用価値がありました。スポーツ施設に関しては新たに建てられた大規模な体育館があり、特に不自由することはないと思われます。

留学と就職活動について

①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど

1 年遅れるくらいで特になく考えています。むしろ駐在員の方にお話を伺う機会があったり、日系の現地法人でインターンする機会に恵まれたりとメリットのほうが大きいように思います。

②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響

日本で一生働くという考えを見直すことが出来ました。

③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)

駐在員の方のお話を主に伺っていました。

④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください

1.研究職 2.専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:) 3.公的機関(機関名:)

4.非営利団体(団体名又は分野:) 5.民間企業(企業名又は業界:)

6.起業(分野:) 7.その他()

留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

海外で、1ヶ月以上の期間1人で生活する経験というのは今回の留学が初めてであったため、結論から言えば苦労しました。特に渡航直後の様々な手続き(居留証の発行、大学入学手続き、履修手続き等)や食事、洗濯などに苦労しました。1人で暮らすことで初めて家族の有り難みに気づくことが出来ました。これは自分の中で大きな発見であり、留学しなければ実感することができなかつた点です。幸い台湾大学側は留学生の苦労も考え、世話役の学生を1名用意してくれていたため、わからないことがあればその世話役に聞くことで解決することが出来ました。

②留学後の予定

修士論文の執筆と同時に就職活動を開始する

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

迷っているとしたら是非留学をすることをオススメします。実際にしてみないとわからないこともありますし、何かしら収穫はあると思います。